

轍わだち

2025. 6. 11 NO. 177

ミャンマー 行き場失う被災者

(朝日新聞 2025年5月28日より)

3700人以上が犠牲になったとされるミャンマーの地震から5月28日で2カ月。避難生活が長期化する中、一部の被災者は避難先からの退去を求められ、行き場を失っている。一方で内戦は続き、国軍の空爆で次々と命が失われている。「5月中に別の場所へ移るよう当局者から言われているが、行き場がない」。中部マンダレーの僧院敷地内で避難生活を送るキンタンエーさん(53)は言う。



僧院の建築物も多大な被害を受ける

僧院は仏教徒が多数を占めるミャンマー人にとって身近な存在だ。トイレや水浴び施設、広い敷地を備える。震災直後から避難所として機能し、被災者は敷地内のシェルターで暮らし、支援団体から支給された食料で何とか日々を過ごしてきた。(省略)問題は次の避難先だ。当局が運営するキャンプに住むには公的書類や自宅が壊れたことの証明書が必要だが、キンタンエーさんは持っていないという。「家を借りるしかないが、お金がない」震源地に近いザガインで被災者支援をするピューさん(22)も「人々は自分で生き抜くことを求められている」とため息をつく。

テラ・ルネッサンスのミャンマー 支援について

平安女学院高校でも5年前に総合学習で講演をしてもらった国際支援団体「テラ・ルネッサンス」。東南アジアに支援のパイプを持つことから、ミャンマー地震の支援にも着実に行動をおこしています。保護者会からの寄付は日本赤十字社へ、4~6月に集めた11円募金はテラ・ルネッサンスへ寄付します。ミャンマーの被災地では、雨季に入り、台風がやってくることが復興の障害になります。現地の生活基盤を戻すにはまだ時間がかかりそうです。

- ①僧院、尼僧院を訪問し、**どこでどのような支援が必要とされているかを調査**し、物資や支援金を配布する。
- ②貧困状態にある被災世帯に対しては、お米、油、乾麺、調理済み食品、ござ、毛布、蚊帳、防水シート、ペットボトルの水といった**生活に不可欠な物資**を直接届ける。
- ③水や衛生の問題、地震で骨折して放置したままの方の治療など**医療支援**、**安全な仮設住居の確保**をする。

現地の様子から①~③の支援を継続しています



災害列島で生きる いのちの危機

ある日の教室から

防災について考える

私は、私の家族は大丈夫だ
だと思っていませんか？

「私の命は、私が守る」
そのための、知識と準備は
できているでしょうか？

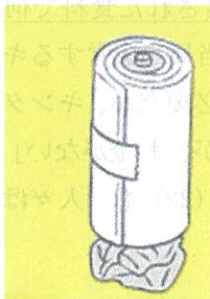
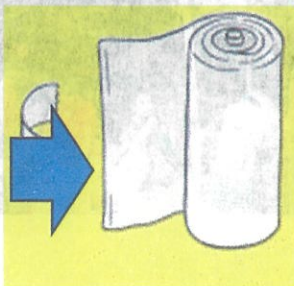
～私は、私の家族は大丈夫だと思っていませんか？～

いよいよ6月8日から、九州一帯に警報級の雨雲も接近し、関西も今週初めから雨模様が続いています。皆さんがご存知のように、日本は地震や噴火、土石流、洪水、高潮などここ十数年を見ても、多くの自然災害に見舞われることが多々あります。自分だけは大丈夫、何とかなると考えていませんか？ 次の問題を、挑戦しよう！いざという時に、備えは肝心です。

問題1 単一電池がありません。単三電池を使って、代わりになるものをつくってください。

材料； 単一電池を使う懐中電灯 ・ 単三電池 ・ 布 ・ セロハンテープ ・ アルミホイル

1 乾電池の大きさを変える



タオルやハンカチなどの布を用意し、単三電池の高さに合わせて切って巻きつけます。直径が3.4cm になったら、セロハンテープで止めます。丸めたアルミホイルで高さを調節します。



ポイント！

・アルミホイル部分は、**通電中かなり熱くなるので注意する。**

・アルミホイルは、**電池と接する部分を平らに整えるのが**

ポイント！

・異なる種類の電池を混ぜて使うと、液漏れ、破損の恐れもあるので、**緊急時以外には使わないこと。**



日本の災害時の無料フリーWi-Fi「00000 japan」の存在

このWifiは、下記の条件を満たさないと使えない場合もあるので、注意してください。

- ①災害の被害があったエリア
- ②フリーWi-Fiの「00000 japan」の開放対象エリア
- ③近くに公衆Wi-Fiスポットがあるところ

皆さんも、いざという時に備えてのアイデアがあれば、ぜひぜひご紹介下さいね。

